

改定 JLAC10（仮称：JLAC11）の構想について(案)

1. 目的

JLAC10 は臨床検査項目コードとされているが、その認知度は低く普及率も低い状況である。その要因としては、構造上多彩な採番が可能であるため、採番が困難となり結果的に多くのローカルコードが作成されてしまう点にある。JLAC10 普及のためには、分析物として含まれる要素の整理を含め、コード体系や各要素の見直しなど、現状の不具合点を大幅に見直す必要がある。

2. コード運用の目的

主にデリバリーコードとして使用する。

施設内での運用は強要せず、検査センター病院間、地域連携、データの2次利用などを主な目的とする。

3. 方針

1) JLAC10 の構造を大きく変えないこと。

桁数：JLAC10（依頼：15桁、結果：17桁）を基本とする。

2) JLAC11 では、基本的にすべてのコードについて再符番を行う。

3) JLAC11 では、コードにリンクする一般検査名称（JLAC 一般検査名称）を設定する。

4) 分析物コード、識別コード、材料コードの12桁で JLAC 一般名称とリンクする。

5) 識別コード、材料コードは、分析物コードとリンクすることで選択肢を限定し採番を容易にする。

ただし、識別、材料は相互にリンクしない。

6) 依頼と結果のコードを分けた設定を可能とする。

・ JLAC コードを依頼コードと報告コードの2種類の概念に分け、前者では末尾の識別コードを常に00とする。

7) 機関独自の番号は一切用いない事とする。

必要な場合は、別途ローカルコードを作成し対応する事を推奨する。

4. 構成要素および構造

1) JLAC 一般検査名称

2) 分析物コード

3) 識別コード

4) 材料コード

5) 測定法コード

6) 結果識別コード

を持って、要素とする。

5. 各要素について

1) JLAC 一般検査名称 (別紙: JLAC 一般名称を参照)

- JLAC 一般検査名称は一般的な「呼び名」を採用し、利用者に馴染みの多いものとする。
(例: 尿蛋白、血糖など)
- 設定は臨床検査項目コード委員会で行う。

2) 分析物コード

- 基本的には、分析物には測定対象物のみとする
- 1桁目をアルファベットとして JLAC10 との鑑別を可能とする。

3) 識別コード

- 分析物コードと連結して JLAC 一般検査名称とリンクする。
- JLAC10 の識別コード+結果固有コードの役割を果たす。
- 必要に応じて新たな要素を追加する。(例: 腫瘍マーカーなどに限定して試薬名など)

4) 材料コード

符番は一連とするが JLAC 一般検査名称と関連する材料とリンクさせる。

要素は、なるべく単純な項目とする。

* 分析物、識別、材料の 12桁は JLAC 一般検査名称とリンクする。

5) 測定法コード

粒度は今後の課題。測定法も分析物コードとリンクさせるかは議論の余地あり。(課題 1 :)

6) 結果識別コード

- 共通コードを整理し、分画結果などは結果固有コードの流用も検討する。
- セットコード (血算、尿一般など) に対する結果は、個別コードを利用し、固有結果識別コードなどは用いない。
- JLAC コードを依頼コードと報告コードの 2 種類の概念に分け、前者では末尾の識別コードを常に 00 とする。

6. コード体系 (別紙参照)

7. 採番方法について

コード表での採番は、日本語で選択できるようにする。

(JLAC コード表の表記は、検索および意味の理解を容易にするために、コードを意味する名称を付記する。)

例) 血糖

JLAC11一般検査名称	JLAC11(分析物)		識別	材料	測定法			結果		
血糖	糖	C1018		0000	全血	018	HK法(ヘキナーゼ)UV	301	依頼	00
					血漿	022	GOD法(ブドウ糖酸化酵素比色法)	302	定量値	01
					血清	023	電極法(GOD/ブドウ糖酸化酵素)	303	定性値、判定	11

採番時は、一般名称を選択することで、各要素に関連する選択肢が表示される。

選択肢は、各名称のみが表示される。(コード No は表示されない)

JLAC一般検査名称	分析物	識別	材料	測定法	結果
血糖	糖		全血	HK法(ヘキソキナーゼ)UV	依頼
			血漿	GOD法(ブドウ糖酸化酵素比色法)	定量値
			血清	電極法(GOD/ブドウ糖酸化酵素)	定性値、判定

8. 運用例

1)血糖での例

JLAC一般検査名称	JLAC11(分析物)	識別	材料	測定法	結果
血糖	糖 C1018	0000	血漿 022	HK法(ヘキソキナーゼ)UV 301	依頼 00
血糖	糖 C1018	0000	血漿 022	HK法(ヘキソキナーゼ)UV 301	定量値 01
血糖	糖 C1018	0000	血漿 022	GOD法(ブドウ糖酸化酵素比色法) 302	定量値 01
血糖	糖 C1018	0000	血清 023	HK法(ヘキソキナーゼ)UV 301	定量値 01
血糖	糖 C1018	0000	血清 023	GOD法(ブドウ糖酸化酵素比色法) 302	定量値 01
血糖	糖 C1018	0000	全血 018	電極法(GOD/ブドウ糖酸化酵素) 303	定量値 01

2)腫瘍マーカーの一例

・検査結果の標準化が見込めない項目については、識別に試薬名等の要素で分類する。

JLAC一般検査名称	JLAC11(分析物)	識別	材料	測定法	結果
CEA	CEA E4001	ルミパルス 001	血清 023	CLEIA	定量値 01
CEA	CEA E4001	アーキテクト 002	血清 023	CLIA	定量値 01
CEA	CEA E4001	HISCL 003	血清 023	CLIA	定量値 01

3)「定性」「定量」の表現は

JLAC 一般検査名称にリンクする識別のひとつとして設定する。

コードの利用については、今後の課題とする。(課題 2 : 識別の要素および構成について?)

例) 尿一般検査

JLAC一般検査名称	JLAC11(分析物)	識別	材料	測定法	結果
尿一般検査	尿一般 SET01	0000	尿 001	試験紙 100	依頼 00
尿蛋白	尿蛋白 A1001	定性 9100	尿 001	試験紙 100	定性値、判定 11
尿糖	尿糖 A1002	定性 9100	尿 001	試験紙 100	定性値、判定 11
尿pH	尿pH A1003	定性 9100	尿 001	試験紙 100	定性値、判定 11
尿ビリルビン	尿ビリルビン A1004	定性 9100	尿 001	試験紙 100	定性値、判定 11
尿ウロビリノーゲン	尿ウロビリノーゲン A1005	定性 9100	尿 001	試験紙 100	定性値、判定 11
尿潜血	尿潜血 A1006	定性 9100	尿 001	試験紙 100	定性値、判定 11
尿白血球	尿白血球 A1007	定性 9100	尿 001	試験紙 100	定性値、判定 11
尿細菌	尿細菌 A1008	定性 9100	尿 001	試験紙 100	定性値、判定 11
尿ケトン	尿ケトン A1009	定性 9100	尿 001	試験紙 100	定性値、判定 11
尿蛋白定量	尿蛋白 A1001	定量 9200	尿 001	試験紙 100	定量値 01
尿糖定量	尿糖 A1002	定量 9200	尿 001	試験紙 100	定量値 01
尿ビリルビン定量	尿ビリルビン A1004	定量 9200	尿 001	試験紙 100	定量値 01
尿ウロビリノーゲン定量	尿ウロビリノーゲン A1005	定量 9200	尿 001	試験紙 100	定量値 01

4) セット項目 (JLAC10 でのセット項目) (課題 3 : セット項目と分類項目の識別表示)

セットコード	
SET01	尿一般検査
SET02	末梢血液一般検査
SET03	先天性代謝異常症スクリーニング
SET04	ポルフィリン症スクリーニング
SET05	髄液一般検査
SET06	胃液・十二指腸液一般検査
SET07	頸管粘液検査
SET08	精液一般検査

5) アレルギー検査

- ・検査名称は「特異的 IgE」とし、分析物は一般性を考慮し「IgE」とする。
識別で各アレルゲンを分類する。

JLAC一般検査名称	JLAC11(分析物)		識別		材料		測定法		結果	
特異的IgE(トータル)	IgE	E1001	トータル	0000	血清	023	EIA		定量値	01
特異的IgE(ハルガヤ)	IgE	E1002	ハルガヤ	0001	血清	023	FEIA(RAST)		定量値	01
特異的IgE(ハルガヤ)	IgE	E1002	ハルガヤ	0001	血清	023	FEIA(RAST)		クラス	12
特異的IgE(カモガヤ)	IgE	E1002	カモガヤ	0002	血清	023	FEIA(RAST)		定量値	01
特異的IgE(カモガヤ)	IgE	E1002	カモガヤ	0002	血清	023	FEIA(RAST)		クラス	12
特異的IgE(ランパク)	IgE	E1002	ランパク	0003	血清	023	FEIA(RAST)		クラス	12

6) 非特異 IgE「MAST」の例 (課題 4 : アレルギー検査のセット項目についての対応)

- ・セット検査として扱い、依頼項目 1 に対して複数の結果項目が返る仕組みと解釈する。
- ・測定法を MAST とし、他の測定値と区分けする。

JLAC一般検査名称	JLAC11(分析物)		識別		材料		測定法		結果	
特異的IgE(MAST33)	IgE	E1002	MAST33	1000	血清	023	MAST		依頼	00
特異的IgE(コナヒョウダニ)	IgE	E1002	コナヒョウダニ	0009	血清	023	MAST		クラス	12
特異的IgE(ハウスダスト1)	IgE	E1002	ハウスダスト1	0008	血清	023	MAST		クラス	12
特異的IgE(ネコ皮屑)	IgE	E1002	ネコ皮屑	0007	血清	023	MAST		クラス	12
特異的IgE(イヌ皮屑)	IgE	E1002	イヌ皮屑	0006	血清	023	MAST		クラス	12
特異的IgE(オオアワガエリ)	IgE	E1002	オオアワガエリ	0005	血清	023	MAST		クラス	12
特異的IgE(ハルガヤ)	IgE	E1002	ハルガヤ	0001	血清	023	MAST		クラス	12
特異的IgE(カモガヤ)	IgE	E1002	カモガヤ	0002	血清	023	MAST		クラス	12

9. 課題

1) JLAC11 の原理原則について

- ・符番における原理原則について、しっかりと検討し整備する。
- ・測定法コードの粒度については今後の課題とする。

2) JLAC11(案)での検討事項

- 1 : 測定方法も分析物にリンクさせるか？
- 2 : 識別コードの要素および構成 (桁数で用途分類するかなど?) の検討。
- 3 : セットコードと分類コードの識別コードの分け方について
- 4 : アレルギーのセット項目の取扱いについて検討する。

2) その他

- ・まずは、検体検査のみを対象とした設計とする。(頻用コードの符番が出来る程度を試みる。)
- ・LOINC との対応も考慮する。